

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 目指す学校像 | ・笑顔と希望のあふれる学校 ・安心・安全な学校 |
|--------|-------------------------|

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 情報端末の有効活用、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践の推進<br>2 安心・安全な学校に向けた、子どもに寄り添う生徒指導・教育相談の充実<br>3 地域の一員として自分にできることを考え、行動できる児童の育成<br>4 主体的に学び続ける教職員の育成 |
|------|--|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 学 校 自 己 評 価 |  |                      |   |   | 学校運営協議会による評価 |     |
|-------------|--|----------------------|---|---|--------------|-----|
| 年 度 目 標     |  |                      | 年 度 評 価   |   |              |     |
| 番号          | 現状と課題  | 評価項目                 | 具体的方策   | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況    | 達成度 |
| 1           | (現状)<br>○基礎的・基本的な学力は概ね定着しており、さいたま市学習状況調査では、市の平均正答率を上回っている。<br>○よい授業をつくるための基本的な授業の進め方について、全教職員の共通理解が図られている。<br>(課題)<br>○ICTの活用について、全教職員が無理なく学ぶことができる環境づくりが課題である。<br>○さいたま市学習状況調査の「主体的で対話的で深い学び」「自宅での学習」に関する質問では、市と比較して肯定的な回答が少なかった。   | 基礎学力の定着に向けた授業改善      | 1 主体的で対話的で深い学びにつながる授業実践について、学校研修において組織的に行う。<br>2 学校と家庭が連携した基礎学力の定着に繋がる環境整備の実践。<br>3 副担任やスクールアシスタントの配置により、個に応じた丁寧な学習指導や支援を実施する。  | 1 学校評価「研修の成果は、日々の教育活動に生かすことができている」教職員のA評価が50%以上となったか。(昨年度23%)<br>2 3 学校評価「授業が分かる」児童A評価が68%以上となったか。(昨年度63%)  |              |     |
| 2           | (現状)<br>○学校評価「学校は楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童は94%であり、前年度より1%向上している。<br>○学校が安心・安全で居心地の良い場になるよう、児童一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談体制に向けて取り組むことができている。<br>(課題)<br>○昨年度は、大きな事故等は起きていないが、多くの危険な事案は報告されている。安全指導については、家庭や地域の協力のもと、年間を通して組織的で継続的な指導の必要性がある。<br>○防犯システムの強化のため、校内施錠開錠システムの改訂が必要である。                           | 児童一人ひとりを大切にした指導体制の構築 | 1 児童一人ひとりに寄り添った、組織的な生徒指導・教育相談体制を構築する。<br>2 校長講話や学校だよりで、「あいさつの大切さ」「心を潤す4つの言葉」「心を元気にする4つの言葉」等について取り上げる。<br>3 「善悪の判断を正しく行う」「いじめをしない、許さない」児童の育成のため、発達支持的生徒指導を校内指導体制の核とする。                               | 1 学校評価「学校は楽しい」児童の肯定的な回答が97%以上となったか。(昨年度94%)<br>2 校長講話や学校だよりで、あいさつや言葉の大切さ等について取り上げたか。<br>3 学校評価「友達となかよく」教職員・保護者・児童のA評価を昨年比各5%上げる。(昨年度29%・53%・76%)                                    |              |     |
| 3           | (現状)<br>○「自らあいさつができる児童の育成」が、文蔵地区の最重要課題の1つであり、令和6年度も学校や家庭、地域で一体となって取り組むこととなっている。<br>○年3回の学校運営協議会での熟議を踏まえた学校運営ができている。<br>○学校だよりや学校安心メール等により、定期的に保護者や地域の方々に情報提供ができている。<br>(課題)<br>○地域との関わりの中で、「地域の一員として自分にできることを考え、行動できる」児童の育成が課題である。<br>○「自ら」あいさつする児童が依然として少なく、保護者や地域の方々と一体となった、あいさつ運動の推進が課題である。 | 学校・家庭・地域との連携         | 1 児童や保護者、地域の方に対しての積極的なあいさつや声かけを実施する。<br>2 児童と地域の方々との多世代交流ができる行事を紹介したり、新たな機会を設定したりする。<br>3 学校運営協議会において、児童と地域の方々話し合う場を設定し、課題解決のための取組を実践する。  | 1 学校評価「あいさつ」に関する教職員・保護者・児童の肯定的評価が昨年度比各3%上がったか。(昨年度教職員66%・保護者93%・児童86%)<br>2 児童が地域の方々との多世代交流ができる機会を設定する。<br>3 学校運営協議会における児童と地域の方々との話合いの充実のため、児童の参加人数や時間、テーマについて再検討する。                |              |     |
| 4           | (現状)<br>○校内研修や学年会等を通して、情報交換や勉強会を実施する等、積極的に学ぶ姿勢がある。<br>○高学年での教科担任制の実施により、担当教科について、より深く教材研究をすることができている。<br>(課題)<br>○教職員の指導力のさらなる向上のため、校内研修体制を組織的で系統的なものにする必要がある。<br>○一人ひとりの教職員が担う業務を精選し、教材研究や主体的に学ぶ時間をいかにして確保するかが課題である。  | 教師自身の主体的で対話的で深い学びの実践 | 1 年次研修や校内研修等を全教職員で学ぶ場として位置づけ、指導主事や管理職による丁寧な協議や指導をする。<br>2 全教職員の年1回以上の授業公開または研修成果を発表する機会を設定する。<br>3 外部講師を招聘した研修会を年間3回実施し、校内研修を体系化する。<br>4 学期1回、管理職による対話に基づく受講奨励を実施する。<br>5 会議の効率的な進め方を確認し、時間内に終わらせる。 | 1 学校評価「主体的な学び」教職員のA評価を40%以上にする。(昨年度19%)<br>2 教職員の主体的な研究として、一人1公開授業に取り組んだか。<br>3 外部講師を招聘した研修会を年間3回実施したか。<br>4 学期1回、管理職による対話に基づく受講奨励を実施したか。<br>5 学校評価「働き方改善」教職員のA評価を50%以上にする。(昨年度40%) |              |     |

|                     |             |
|---------------------|-------------|
| 学校運営協議会による評価        | 実施日令和 年 月 日 |
| 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |             |